

# 5月の中小企業月次景況調査

〔令和8年5月末現在〕

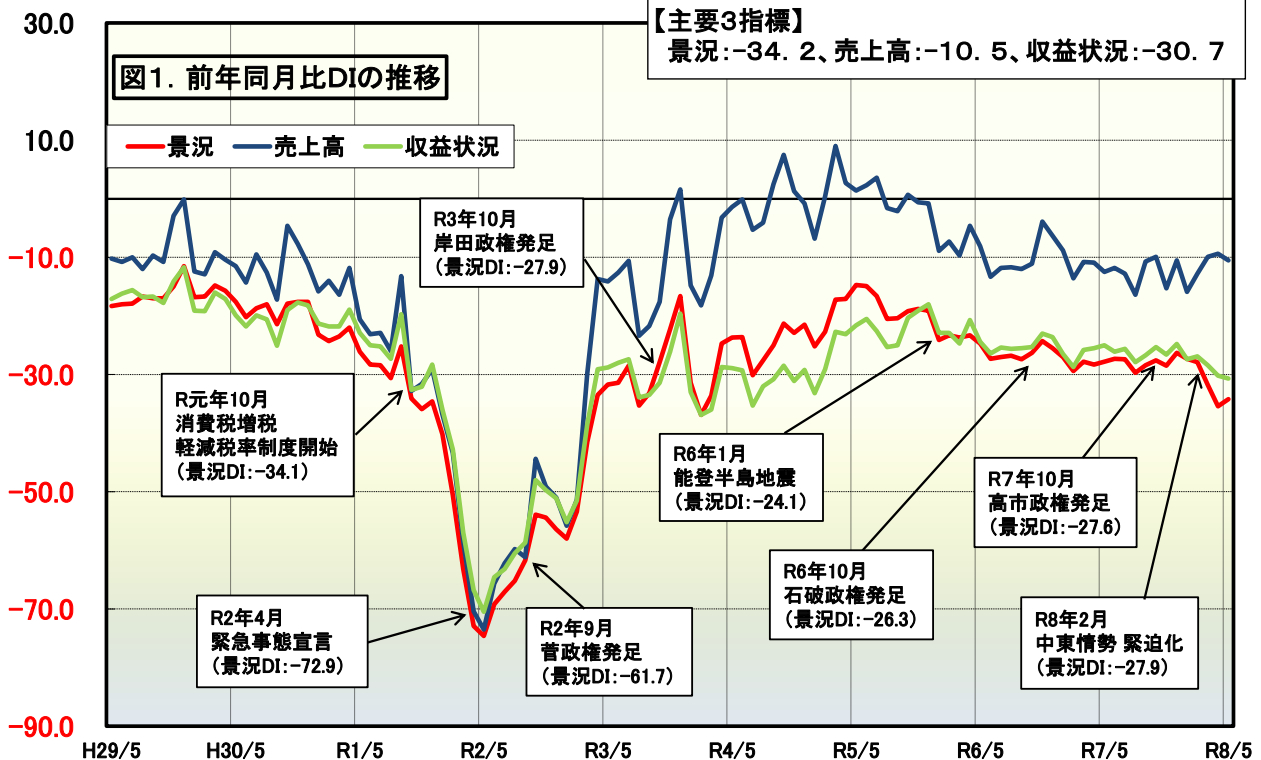


National Federation of Small Business Associations

令和8年6月25日発表

## ◎5月の景況DIは前月に引き続き低位での推移となった

- 製造業では、全ての業種において中東情勢による経営への悪影響が及んでおり、前月に引き続き低位での推移となった。政府による目詰まり解消に向けた取り組みへの期待はあるものの、石油関連製品の価格は高騰しており、価格転嫁に時間を要する見込みであるため、収益への一層の悪影響が懸念されている。
- 非製造業においては、政府の各種施策による効果への期待から、卸売業、小売業、商店街の景況感は改善に転じた。
- 製造業、非製造業ともに、中東情勢による悪影響に関する声が数多く寄せられており、景況感は先行き不透明な状況となっている。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役職員約2,420名に委嘱〕による調査結果です。  
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況(前年同月比)です。

(本発表資料のお問い合わせ先)  
全国中小企業団体中央会  
担当：政策推進部  
TEL 03-3523-4902  
<https://www.chuokai.or.jp>

## 5月の調査結果のD I 概況

### 【指標D Iの動向とポイント】

1. 中東緊迫化以前からの原材料価格の上昇、人件費の増加、人手不足の深刻化に加え、中東情勢により資材調達難と一層の価格高騰が発生しており、価格転嫁に時間を要する見込みであるため、経営への悪影響が幅広く懸念される状況となっている。
2. 景況D I、収益D Iは前月に引き続き低位での推移となった。
3. 政府による物価、エネルギー価格の抑制策への期待感から、卸売業、小売業、商店街の景況感は改善に転じた。

### 全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

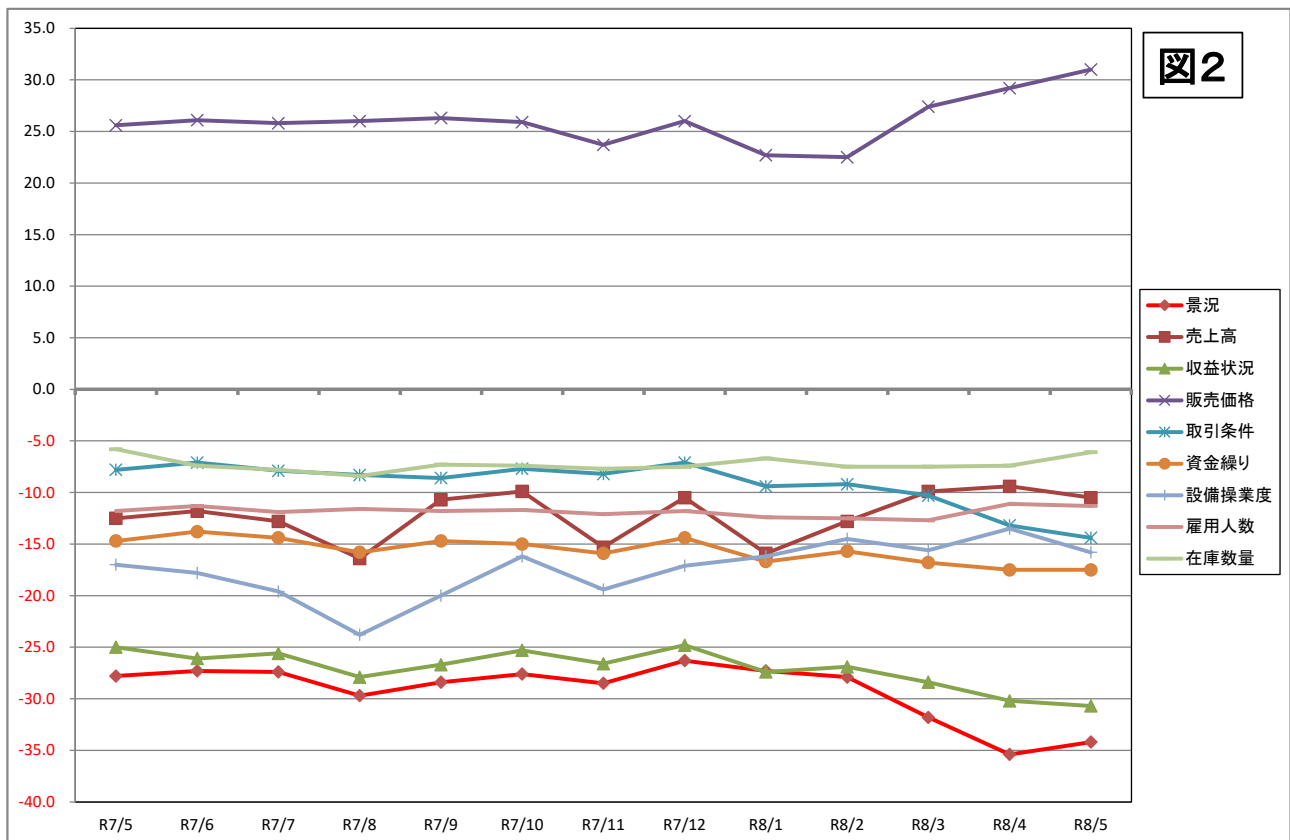


表1	R7								R8					前月比
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
景況	-27.8	-27.3	-27.4	-29.7	-28.4	-27.6	-28.5	-26.3	-27.3	-27.9	-31.8	-35.4	-34.2	1.2
売上高	-12.5	-11.8	-12.8	-16.4	-10.7	-9.9	-15.3	-10.5	-15.9	-12.8	-9.9	-9.4	-10.5	-1.1
収益状況	-25.0	-26.1	-25.6	-27.9	-26.7	-25.3	-26.6	-24.8	-27.4	-26.9	-28.4	-30.2	-30.7	-0.5
販売価格	25.6	26.1	25.8	26.0	26.3	25.9	23.7	26.0	22.7	22.5	27.4	29.2	31.0	1.8
取引条件	-7.8	-7.1	-7.9	-8.3	-8.6	-7.7	-8.2	-7.1	-9.4	-9.2	-10.3	-13.2	-14.4	-1.2
資金繰り	-14.7	-13.8	-14.4	-15.8	-14.7	-15.0	-15.9	-14.4	-16.7	-15.7	-16.8	-17.5	-17.5	0.0
設備操業度	-17.0	-17.8	-19.6	-23.8	-20.0	-16.2	-19.4	-17.1	-16.2	-14.5	-15.6	-13.5	-15.8	-2.3
雇用人員	-11.8	-11.3	-11.9	-11.6	-11.8	-11.7	-12.1	-11.8	-12.4	-12.5	-12.7	-11.1	-11.3	-0.2
在庫数量	-5.8	-7.4	-7.8	-8.4	-7.3	-7.4	-7.7	-7.5	-6.7	-7.5	-7.5	-7.4	-6.1	1.3

## 【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

中東情勢による経営への悪影響に関する声が、全ての業種から数多く寄せられた。流通の目詰まりにより資材調達が困難となっていることに加え、仕入価格高騰分を販売価格に転嫁することが出来ず、経営を圧迫している。

### 《主な報告内容》

#### ◇中東情勢による経営への悪影響に関する事業者の声

- ・4月に引き続き、包材・資材の価格高騰および納期遅延が続いている。一部の包材・資材メーカーでは1カ月単位での価格改定があるなど、コスト上昇への対応が課題となっている。(岩手/食料品)
- ・原料、副資材、燃料など生産活動に必要な全てのものが値上がりしている状態である。価格転嫁を進めているが、値上げのペースが速く、客先に対する説明が追いつかない状況である。恐らく今後、値上げは受け入れてくれるとは思いますが、受注は減少していくと予測されている。(和歌山/繊維工業)
- ・多方面から価格改定の要請が届いている。価格転嫁すべく顧客へ依頼し、受け入れてもらっているが、今後の売上を不安視している。(群馬/繊維工業)
- ・中東問題の影響による建設関連資材の納入遅延から、工期延期や住宅建設の見送りが発生しており、生産効率にも影響が生じている。(青森/木材・木製品)
- ・断熱材・接着剤・塩ビ製品などの製品が入りにくくなっている。それに伴い価格も急上昇しており、元請業者への価格転嫁がどこまでできるのかを懸念している。(東京/木材・木製品)
- ・用紙、インク製品等の印刷資材の急激な価格高騰が相次いでいる。加えて、一部資材においては供給そのものが不安定となり、メーカー各社による出荷調整や発注制限が実施されるなど、従来通りの安定調達が難しい状況が続いている。取引先に対し「適正な価格転嫁・納期の延長や代替資材の提案・早期発注」について理解を求める文書を必要に応じて送付し対応している。(長崎/印刷)
- ・石油由来製品の入荷遅延・価格高騰により製造原価に影響が出てきており、今後の価格に影響が出る見込み。資材費、燃料、輸送費、人件費高騰などの要因により製造原価が上昇してきているが、設計価格(販売価格)の上昇が小さいため収益が悪化している。(山形/窯業・土石製品)
- ・エネルギー価格の急上昇や物価高騰のみならず、原材料調達の難しさから納期が遅れるなど、製造工程が定まらず収益にも悪影響をもたらしている。(徳島/鉄鋼・金属)
- ・塗装用塗料の納入が一部滞っている。シンナー溶剤は自社分の確保は出来ているが、下請先までの十分な量が確保出来ない状況。材料についても量は確保出来るが、全ての品目に渡って値上げの通知が来ている状況である。製品の納入先である大手先へ値上げの要請はしているが、数ある下請会社の実情を集計しているところで、まだ製品販売価格への転嫁がされていない。(山形/一般機器)
- ・ナフサ由来の生産副資材の価格高騰、入手の先行き不透明感に対して、在庫積み増し、代替品への働きかけなどを行い、生産量を維持するべく日々奔走している。(愛知/電気機器)
- ・線材や副資材の値上げ通知が続々と届いている。今はまだ、主原料の鋼線や鉄線は具体的な値上げの通知はないが、近日中に実施されると予想されている。すでに、ナイロン糸や錆落とし材等の化学製品は20%以上高騰している。釣針は単価が非常に小さく、エネルギーや副資材コストの上昇を価格に転嫁しづらい製品で、多くの製造業者が「コスト増に対し価格転嫁が追いつかず、利益の減少は避けられない」と言っている。(兵庫/その他製造)
- ・資材の高騰が著しく、値上がり分を100%転嫁出来ていない状況にある。特に受注済みの案件では十分な価格転嫁が出来ておらず利益を圧縮している。断熱材など入荷まで3カ月を要するなど出荷調整の影響により、工事の進捗が滞るケースや資材不足による工事の中断が生じている。(秋田/建設)
- ・資材価格の上昇と塩化ビニル管の調達難が続いている。新規工事や漏水等緊急対応に支障が生じているほか、入荷時期が不透明なことから入札への影響も懸念される。(奈良/建設)
- ・建設資材、特に接着剤、塗料系が入手困難になってきている。材料全てが値上がり傾向にあり、見積書の有効期限を記入することが難しい状態である。(福岡/建設)
- ・潤滑油、アドブルー、塗料用シンナー等の供給不安は5月も継続しており、トラック架装、修理、車検における納期遅延やコスト上昇が顕著となっている。タイヤ、包装資材など関連資材への影響も広がりつつあり、物流全体のコスト増加要因となっている。(島根/運輸)

※ 後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告(要旨)」等も参照。

# 1. 景況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 35.4	▲ 34.2	1.2	上昇	↗
製造業	▲ 36.3	▲ 37.4	▲ 1.1	悪化	↘
非製造業	▲ 34.8	▲ 31.9	2.9	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	電気機器、卸売業、小売業、商店街			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	化学・ゴム			
	5～10ポイント	輸送機器、その他の非製造業			

表2. 業種別【景況】DIの推移（前年同月比）

業種名	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	前月比
全体	-27.8	-27.3	-27.4	-29.7	-28.4	-27.6	-28.5	-28.3	-27.3	-27.9	-31.8	-35.4	-34.2	1.2
製造業	-35.7	-33.9	-34.5	-36.6	-34.5	-34.1	-35.3	-32.6	-31.8	-30.3	-33.9	-36.3	-37.4	-1.1
食料品	-33.4	-27.8	-24.4	-29.9	-26.4	-27.1	-29.7	-26.8	-31.8	-31.8	-32.1	-38.3	-38.1	0.2
繊維工業	-43.2	-38.2	-38.2	-47.7	-46.4	-45.0	-46.4	-41.6	-42.7	-41.6	-45.5	-45.8	-47.2	-1.4
木材・木製品	-39.6	-47.3	-50.0	-47.4	-46.4	-45.6	-44.8	-41.8	-39.4	-39.2	-41.6	-50.9	-52.6	-1.7
紙・紙加工品	-30.4	-16.7	-34.8	-41.7	-52.2	-45.9	-48.0	-54.5	-43.5	-40.9	-52.2	-47.9	-43.5	4.4
印刷	-45.8	-45.8	-50.9	-50.0	-37.3	-43.1	-41.4	-40.7	-46.6	-34.5	-42.1	-48.3	-50.0	-1.7
化学・ゴム	-25.9	-22.2	-17.9	-16.6	-14.3	-17.8	-10.4	-17.8	-7.1	-10.7	-28.6	-18.5	-29.6	-11.1
窯業・土石製品	-35.5	-43.4	-37.1	-33.8	-35.0	-33.1	-35.8	-38.5	-38.1	-36.7	-42.4	-42.0	-45.1	-3.1
鉄鋼・金属	-38.1	-29.4	-35.1	-37.7	-35.1	-38.1	-39.0	-32.6	-28.8	-25.2	-30.3	-23.8	-23.7	0.1
一般機器	-34.2	-31.8	-31.2	-36.2	-31.0	-28.5	-26.7	-24.8	-23.8	-20.0	-20.0	-28.0	-27.6	0.4
電気機器	-14.3	-10.7	-7.4	0.0	-18.5	-14.8	-18.5	-11.1	-3.7	0.0	0.0	-11.5	-3.7	7.8
輸送機器	-18.2	-22.7	-23.8	-23.1	-18.2	-11.4	-11.3	0.0	4.5	-9.1	-7.0	-2.6	-7.6	-5.0
その他の製造業	-38.0	-31.4	-42.0	-39.6	-40.0	-38.0	-50.0	-42.9	-37.3	-32.0	-40.0	-40.0	-43.7	-3.7
非製造業	-22.0	-22.3	-22.0	-24.6	-23.7	-22.6	-23.2	-21.4	-23.6	-26.0	-30.1	-34.8	-31.9	2.9
卸売業	-28.2	-27.5	-26.7	-24.6	-26.0	-23.5	-27.7	-26.1	-24.4	-29.3	-28.7	-35.5	-30.2	5.3
小売業	-32.9	-31.1	-30.6	-33.1	-34.8	-34.0	-35.3	-33.1	-34.7	-37.1	-41.0	-43.0	-36.2	6.8
商店街	-30.0	-33.1	-35.3	-37.4	-36.9	-34.8	-30.2	-23.4	-33.6	-31.7	-31.0	-37.9	-28.3	9.6
サービス業	-0.3	-9.6	-7.0	-10.0	-9.4	-5.8	-8.7	-8.5	-15.5	-13.4	-15.1	-19.7	-19.2	0.5
建設業	-22.4	-16.3	-17.1	-22.5	-18.3	-19.7	-18.3	-20.0	-18.2	-24.5	-27.3	-37.7	-38.2	-0.5
運輸業	-25.2	-22.2	-22.0	-24.8	-20.0	-23.5	-20.0	-17.9	-14.7	-21.6	-42.6	-41.6	-45.8	-4.2
その他の非製造業	-6.4	0.0	-3.3	-13.3	-10.4	-6.9	-16.6	0.0	-6.7	-6.6	-24.2	-19.4	-25.8	-6.4

## Pick up!

「電気機器」：引き続きルームエアコンが好調に推移しており、景況DIは前月比7.8ポイントの上昇となった。売上高DIについても22.0ポイントの上昇、収益状況DIも19.1ポイント上昇し、主要3指標ともに上昇となった。

「窯業・土石製品」：資材調達難による工期の延長、資材価格高騰など、各種資材の流通目詰まりによる悪影響を幅広く受けており、景況DIは前月比▲3.1ポイント低下となった。売上高DIは▲11.8ポイント、収益状況DIは▲8.5ポイントとなり、主要3指標ともに低水準での推移となった。

## 2. 売上高

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 9.4	▲ 10.5	▲ 1.1	悪化	↘
製造業	▲ 7.6	▲ 15.2	▲ 7.6	悪化	↘
非製造業	▲ 10.8	▲ 6.8	4.0	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	電気機器、小売業、商店街			
	5～10ポイント	卸売業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	紙・紙加工品、化学・ゴム、窯業・土石製品、一般機器、輸送機器、その他の製造業、運輸業、その他の非製造業			
	5～10ポイント	木材・木製品			

表3. 業種別【売上高】DIの推移（前年同月比）

業種名	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	前月比
全体	-12.5	-11.8	-12.8	-16.4	-10.7	-9.9	-15.3	-10.5	-15.9	-12.8	-9.9	-9.4	-10.5	-1.1
製造業	-15.5	-17.0	-18.3	-25.3	-15.1	-14.2	-21.8	-18.2	-18.4	-14.0	-12.7	-7.8	-15.2	-7.6
食料品	-6.1	-8.6	-8.1	-11.7	-9.2	-1.5	-4.5	-10.8	-15.4	-11.1	-16.1	-3.5	-3.9	-0.4
繊維工業	-19.8	-26.4	-20.0	-33.3	-22.7	-29.7	-36.3	-24.8	-30.9	-25.7	-24.1	-20.5	-24.5	-4.0
木材・木製品	-8.1	-25.0	-36.9	-47.4	-30.7	-26.3	-25.8	-33.1	-35.1	-28.7	-23.9	-33.9	-43.9	-10.0
紙・紙加工品	-4.4	4.2	8.7	-33.4	13.0	-41.7	-32.0	-40.9	-30.5	-9.1	-26.1	-13.1	-26.1	-13.0
印刷	-28.8	-23.7	-38.6	-43.1	-20.3	-27.6	-31.0	-32.2	-24.2	-15.6	-17.6	-22.5	-25.9	-3.4
化学・ゴム	-18.5	3.7	-14.3	12.5	17.8	21.4	-3.5	14.3	17.8	0.0	-3.6	14.8	0.0	-14.8
窯業・土石製品	-20.0	-35.3	-20.8	-20.2	-20.4	-10.3	-27.7	-30.4	-32.8	-26.4	-25.5	-13.0	-24.8	-11.8
鉄鋼・金属	-18.3	-9.3	-13.0	-30.8	-21.3	-10.7	-29.7	-15.9	-18.2	-11.5	-10.6	1.5	-2.2	-3.7
一般機器	-24.8	-24.1	-18.8	-24.5	-12.7	-29.5	-21.0	-11.5	-10.5	-4.8	-1.0	4.0	-16.4	-20.4
電気機器	-3.6	21.4	0.0	7.7	7.4	3.7	-14.8	7.4	3.7	7.4	25.9	3.9	25.9	22.0
輸送機器	-6.8	-2.3	-11.9	-25.7	0.0	15.9	-4.5	11.6	22.7	9.1	23.2	23.1	7.7	-15.4
その他の製造業	-28.0	-21.6	-36.0	-39.6	-24.0	-22.0	-42.0	-26.6	-13.7	-14.0	-12.0	-14.0	-33.4	-19.4
非製造業	-10.1	-8.0	-8.5	-9.6	-7.3	-6.7	-10.3	-4.6	-13.9	-11.9	-7.8	-10.8	-6.8	4.0
卸売業	-12.9	-9.3	-8.4	-6.7	2.5	-2.5	-15.3	-6.4	-4.5	-6.4	1.0	0.0	9.1	9.1
小売業	-24.3	-20.1	-12.6	-22.8	-17.6	-18.7	-24.1	-21.8	-33.5	-29.7	-24.4	-26.5	-15.2	11.3
商店街	-14.4	-12.9	-26.3	-17.2	-21.0	-17.7	-18.9	5.1	-21.5	-19.8	-5.0	-14.5	-4.4	10.1
サービス業	18.4	11.9	3.7	15.5	4.7	11.9	14.1	8.5	-2.5	6.2	3.6	5.7	10.3	4.6
建設業	-19.8	-13.3	-14.9	-20.0	-13.1	-13.3	-14.0	-7.9	-13.4	-18.4	-13.0	-22.1	-24.5	-2.4
運輸業	-17.3	-6.1	7.0	-13.2	0.8	-1.5	-10.0	-0.8	-0.8	3.1	-0.7	-6.2	-20.6	-14.4
その他の非製造業	19.4	6.7	0.0	16.6	6.9	6.9	16.7	30.0	3.4	0.0	-3.4	12.9	-6.4	-19.3

### Pick up!

「小売」：政府の各種施策による物価抑制の効果により実質賃金が改善傾向。一部では買い控えの動きが見られるものの個人消費は堅調であり、売上高DIは前月比11.3ポイントの上昇となった。景況DIは6.8ポイント、収益DIは6.1ポイントの改善となり、低水準での推移ではあるが主要3指標ともに改善となった。

「運輸」：中東情勢の影響による石油関連製品流通目詰まりの悪影響を幅広く受けており、引き続き先行き不透明な状況となっている。売上高DIは前月比▲14.4ポイントの低下となった。景況DIは▲4.2ポイント、収益DIは▲3.5ポイントと主要3指標ともに低下となった。

### 3. 収益状況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 30.2	▲ 30.7	▲ 0.5	悪化	↘
製造業	▲ 30.6	▲ 33.6	▲ 3.0	悪化	↘
非製造業	▲ 30.0	▲ 28.4	1.6	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	電気機器			
	5～10ポイント	小売業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	紙・紙加工品、印刷、化学・ゴム、その他の非製造業			
	5～10ポイント	繊維工業、窯業・土石製品、その他の製造業			

表4. 業種別【収益状況】DIの推移（前年同月比）

業種名	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	前月比
全体	-25.0	-26.1	-25.6	-27.9	-26.7	-25.3	-26.6	-24.8	-27.4	-26.9	-28.4	-30.2	-30.7	-0.5
製造業	-29.9	-30.2	-31.0	-33.0	-31.7	-28.6	-31.0	-29.3	-29.3	-27.9	-28.4	-30.6	-33.6	-3.0
食料	-30.3	-32.3	-31.6	-29.4	-31.0	-27.7	-25.7	-30.4	-33.8	-29.3	-36.1	-39.8	-36.7	3.1
繊維工業	-32.4	-33.7	-30.9	-36.0	-40.0	-39.6	-43.7	-35.4	-38.1	-31.9	-36.6	-33.7	-39.6	-5.9
木材・木製品	-30.6	-31.3	-37.7	-43.1	-42.1	-30.7	-30.2	-34.7	-41.3	-34.8	-33.6	-36.7	-39.5	-2.8
紙・紙加工品	-17.4	0.0	-13.0	-41.7	-34.8	-37.5	-40.0	-36.4	-34.8	-18.2	-17.4	-8.7	-26.1	-17.4
印刷	-39.0	-45.7	-45.6	-48.3	-33.9	-46.6	-39.7	-44.0	-41.4	-39.7	-36.9	-48.3	-63.8	-15.5
化学・ゴム	-25.9	-22.2	-17.8	-20.8	-14.3	-7.2	-6.9	-10.7	7.1	-10.7	-17.9	-3.7	-37.0	-33.3
窯業・土石製品	-25.2	-34.6	-28.9	-32.3	-31.4	-24.2	-32.1	-30.4	-32.1	-33.9	-33.6	-30.6	-39.1	-8.5
鉄鋼・金属	-29.0	-27.1	-32.1	-35.4	-31.3	-28.2	-31.3	-25.0	-24.2	-24.4	-23.5	-23.2	-20.7	2.5
一般機器	-34.2	-25.0	-26.5	-26.4	-25.2	-29.5	-32.3	-20.0	-20.0	-23.8	-18.1	-29.0	-27.5	1.5
電気機器	-17.8	-3.6	-22.2	7.7	-7.4	0.0	-22.2	-11.1	0.0	0.0	7.4	-15.4	3.7	19.1
輸送機器	-20.5	-25.0	-23.9	-23.1	-20.5	-9.1	-18.1	-14.0	-6.8	-6.8	-11.7	-5.1	-7.7	-2.6
その他の製造業	-38.0	-37.3	-36.0	-37.7	-38.0	-38.0	-36.0	-38.8	-29.5	-34.0	-22.0	-28.0	-33.4	-5.4
非製造業	-21.4	-22.9	-21.5	-24.0	-22.9	-22.5	-23.0	-21.3	-25.9	-26.1	-28.4	-30.0	-28.4	1.6
卸売業	-19.3	-25.2	-22.3	-20.0	-22.5	-17.5	-22.8	-23.6	-16.5	-23.8	-22.7	-21.5	-21.1	0.4
小売業	-31.3	-33.6	-26.8	-33.1	-31.0	-36.5	-36.5	-36.9	-40.7	-40.2	-38.7	-40.1	-34.0	6.1
商店街	-31.2	-29.4	-34.0	-39.3	-34.4	-29.1	-27.0	-16.4	-37.4	-32.3	-28.5	-36.1	-31.4	4.7
サービス業	-3.7	-11.8	-10.3	-9.4	-13.0	-7.2	-7.9	-9.9	-20.5	-14.5	-18.7	-17.5	-15.3	2.2
建設業	-27.2	-22.4	-22.6	-22.9	-20.5	-24.9	-26.0	-26.1	-25.6	-28.7	-28.5	-34.6	-35.1	-0.5
運輸業	-18.1	-13.8	-16.6	-27.1	-18.4	-19.5	-19.2	-7.8	-11.0	-12.3	-34.9	-36.2	-39.7	-3.5
その他の非製造業	-12.9	-6.7	-10.0	0.0	-6.9	-10.4	3.3	6.6	10.0	-3.3	-17.3	-3.2	-25.8	-22.6

#### Pick up!

「鉄鋼・金属」：中東情勢影響を幅広く受けているものの、半導体関連・自動車関連において堅調な動きが見られていることから、収益DIは前月比2.5ポイントの上昇となった。景況DIについては横ばい、売上高DIについては▲3.7ポイントとなった。

「印刷」：ナフサ由来原料の調達難に加え、仕入価格高騰の影響を大きく受けており、収益状況DIは前月比▲15.5ポイント低下し▲63.8ポイントと厳しい状況となっている。景況DIは前月比▲1.7ポイントの▲50.0ポイント、売上高DIは前月比▲3.4ポイントの▲25.9ポイントとなり、主要3指標ともに低水準での推移となった。

#### 4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 16.8	▲ 17.5	▲ 0.7	悪化	↘
製造業	▲ 16.9	▲ 18.3	▲ 1.4	悪化	↘
非製造業	▲ 16.7	▲ 16.9	▲ 0.2	悪化	↘
(2) 販売価格	前月	当月	増減	傾向	
全体	29.2	31.0	1.8	上昇	↗
製造業	29.5	28.7	▲ 0.8	悪化	↘
非製造業	29.0	32.8	3.8	上昇	↗
(3) 取引条件	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 10.3	▲ 14.4	▲ 4.1	悪化	↘
製造業	▲ 5.1	▲ 8.7	▲ 3.6	悪化	↘
非製造業	▲ 14.3	▲ 18.7	▲ 4.4	悪化	↘
(4) 設備操業度	前月	当月	増減	傾向	
製造業	▲ 15.6	▲ 15.8	▲ 0.2	悪化	↘
(5) 雇用人員	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 12.7	▲ 11.3	1.4	上昇	↗
製造業	▲ 15.6	▲ 12.4	3.2	上昇	↗
非製造業	▲ 10.6	▲ 10.3	0.3	上昇	↗
(6) 在庫数量	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 7.5	▲ 6.1	1.4	上昇	↗
製造業	▲ 7.0	▲ 4.3	2.7	上昇	↗
非製造業	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 0.4	悪化	↘

### Calendar 2026

#### ～～ 国内外の主なトピックス（令和8年6月）～～

6月8日（月）	<p>国際収支統計（速報）：財務省 4月の国際収支は、物品・サービスの取引や投資収益の状況を示す経常収支が3兆9078億円の黒字となった。黒字は15カ月連続で、黒字幅は前年同期より1兆5378億円拡大した。半導体・電子部品や非鉄金属の輸出が増えて貿易収支が黒字になったことや、国内企業が海外子会社から受け取る配当金などの直接投資収益の増加が寄与した。</p>
6月8日（月）	<p>景気ウォッチャー調査（街角景気）：内閣府 街角の景況感を示す現状判断指数（DI）が季節調整値で43.6と前月を2.8ポイント上回り、3カ月ぶりに上昇した。中東情勢の影響が今のところ限定的なものにとどまっていると見られる。基調判断は、「景気は、中東情勢によるマインド面の下押しを中心に、このところ持ち直しの動きに弱さがみられる。先行きについては、中東情勢による不透明感がみられる。」のまま据え置かれた。</p>
6月8日（月）	<p>毎月勤労統計調査（速報、従業員5人以上の事業所）：厚生労働省 物価の変動を加味した働き手1人当たりの4月の実質賃金は、前年同月比1.9%増で4カ月連続のプラスとなった。名目賃金が3%台の高い伸びとなったことに加え、ガソリンの暫定税率廃止や電気・ガス代の補助金などにより物価上昇が抑制され、実質賃金の上昇に寄与した。</p>

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(令和8年5月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全体	-34.2	-10.5	-30.7	31.0	-14.4	-17.5	-15.8	-11.3	-6.1
製造業	-37.4	-15.2	-33.6	28.7	-8.7	-18.3	-15.8	-12.4	-4.3
非製造業	-31.9	-6.8	-28.4	32.8	-18.7	-16.9		-10.3	-8.7

(製造業)

業種名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食料品	-38.1	-3.9	-36.7	45.5	-12.9	-20.3	-6.0	-11.4	2.0
繊維工業	-47.2	-24.5	-39.6	17.0	-17.0	-29.3	-19.8	-19.8	-15.1
木材・木製品	-52.6	-43.9	-39.5	14.1	-16.6	-22.8	-17.6	-11.4	-3.5
紙・紙加工品	-43.5	-26.1	-26.1	56.5	-8.7	-13.0	-26.1	-17.4	-8.7
印刷	-50.0	-25.9	-63.8	31.0	-8.6	-27.6	-44.8	-17.3	-3.4
化学・ゴム	-29.6	0.0	-37.0	48.1	-7.4	-11.1	-14.8	0.0	3.7
窯業・土石製品	-45.1	-24.8	-39.1	42.1	0.8	-20.3	-25.6	-15.0	-2.2
鉄鋼・金属	-23.7	-2.2	-20.7	21.5	-3.7	-10.4	-6.6	-11.9	-3.7
一般機器	-27.6	-16.4	-27.5	18.3	-3.0	-8.1	-16.3	-7.2	-11.2
電気機器	-3.7	25.9	3.7	22.2	-3.7	-7.4	-3.7	-7.4	3.7
輸送機器	-7.6	7.7	-7.7	10.3	-5.1	-5.2	2.5	-10.2	0.0
その他の製造業	-43.7	-33.4	-33.4	14.6	-12.5	-25.0	-22.9	-12.5	-12.5

(非製造業)

業種名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸売業	-30.2	9.1	-21.1	44.3	-13.6	-17.1		-7.1	-1.5
小売業	-36.2	-15.2	-34.0	30.1	-30.7	-23.0		-13.9	-15.2
商店街	-28.3	-4.4	-31.4	40.9	-22.6	-22.0		-10.1	-5.0
サービス業	-19.2	10.3	-15.3	35.3	-13.5	-8.9		-4.6	
建設業	-38.2	-24.5	-35.1	28.9	-19.3	-15.3		-12.3	
運輸業	-45.8	-20.6	-39.7	13.8	-9.1	-16.8		-18.3	
その他の非製造業	-25.8	-6.4	-25.8	32.3	-6.5	-12.9		0.0	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(令和 8年 5月 末現在)

(単位:%)

項目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
全体	4.6	56.6	38.8	22.1	45.2	32.6	8.1	53.1	38.8	36.7	57.6	5.7	2.9	79.7	17.3	2.5	77.6	20.0	8.1	68.0	23.9	3.7	81.3	15.0	11.3	71.3	17.4
製造業	4.9	52.9	42.3	21.2	42.4	36.4	7.8	50.8	41.4	33.3	62.2	4.6	3.4	84.6	12.1	2.8	76.1	21.1	8.1	68.0	23.9	4.4	78.8	16.8	10.6	74.6	14.9
非製造業	4.3	59.5	36.2	22.9	47.4	29.7	8.4	54.9	36.8	39.3	54.2	6.5	2.6	76.1	21.3	2.2	78.6	19.1	0.0	0.0	0.0	3.3	83.1	13.6	12.4	66.4	21.1

(製造業)

項目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
食料品	3.5	55.0	41.6	24.8	46.5	28.7	7.4	48.5	44.1	47.0	51.5	1.5	0.5	86.1	13.4	1.5	76.7	21.8	7.9	78.2	13.9	2.5	83.7	13.9	13.9	74.3	11.9
繊維工業	1.9	49.1	49.1	13.2	49.1	37.7	3.8	52.8	43.4	25.5	66.0	8.5	1.9	79.2	18.9	0.9	68.9	30.2	4.7	70.8	24.5	2.8	74.5	22.6	7.5	69.8	22.6
木材・木製品	3.5	40.4	56.1	11.4	33.3	55.3	7.9	44.7	47.4	23.7	66.7	9.6	0.9	81.6	17.5	0.0	77.2	22.8	3.5	75.4	21.1	5.3	78.1	16.7	14.0	68.4	17.5
紙・紙加工品	8.7	39.1	52.2	26.1	21.7	52.2	17.4	39.1	43.5	56.5	43.5	0.0	8.7	73.9	17.4	8.7	69.6	21.7	17.4	39.1	43.5	0.0	82.6	17.4	17.4	56.5	26.1
印刷	1.7	46.6	51.7	13.8	46.6	39.7	1.7	32.8	65.5	36.2	58.6	5.2	5.2	81.0	13.8	0.0	72.4	27.6	5.2	44.8	50.0	8.6	65.5	25.9	6.9	82.8	10.3
化学・ゴム	3.7	63.0	33.3	33.3	33.3	33.3	7.4	48.1	44.4	48.1	51.9	0.0	7.4	77.8	14.8	3.7	81.5	14.8	18.5	48.1	33.3	11.1	77.8	11.1	18.5	66.7	14.8
窯業・土石製品	3.0	48.9	48.1	23.3	28.6	48.1	6.8	47.4	45.9	43.6	54.9	1.5	5.3	90.2	4.5	4.5	70.7	24.8	7.5	59.4	33.1	2.3	80.5	17.3	8.3	81.2	10.5
鉄鋼・金属	7.4	61.5	31.1	23.0	51.9	25.2	7.4	64.4	28.1	26.7	68.1	5.2	3.7	88.9	7.4	4.4	80.7	14.8	10.4	72.6	17.0	3.7	80.7	15.6	7.4	81.5	11.1
一般機器	7.1	58.2	34.7	21.4	40.8	37.8	9.2	54.1	36.7	21.4	75.5	3.1	4.1	88.8	7.1	4.1	83.7	12.2	10.2	63.3	26.5	6.1	80.6	13.3	8.2	72.4	19.4
電気機器	18.5	59.3	22.2	37.0	51.9	11.1	22.2	59.3	18.5	25.9	70.4	3.7	7.4	81.5	11.1	7.4	77.8	14.8	11.1	74.1	14.8	7.4	77.8	14.8	14.8	74.1	11.1
輸送機器	10.3	71.8	17.9	30.8	46.2	23.1	12.8	66.7	20.5	15.4	79.5	5.1	7.7	79.5	12.8	5.1	84.6	10.3	17.9	66.7	15.4	7.7	74.4	17.9	7.7	84.6	7.7
その他の製造業	4.2	47.9	47.9	8.3	50.0	41.7	10.4	45.8	43.8	25.0	64.6	10.4	4.2	79.2	16.7	2.1	70.8	27.1	2.1	72.9	25.0	6.3	75.0	18.8	12.5	62.5	25.0

(非製造業)

項目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
卸売業	6.0	57.8	36.2	32.7	43.7	23.6	10.1	58.8	31.2	51.8	40.7	7.5	3.5	79.4	17.1	2.0	78.9	19.1				4.0	84.9	11.1	16.1	66.3	17.6
小売業	5.5	52.8	41.7	22.3	40.1	37.5	8.7	48.5	42.7	43.4	43.4	13.3	1.0	67.3	31.7	2.9	71.2	25.9				1.3	83.5	15.2	11.0	62.8	26.2
商店街	3.8	64.2	32.1	20.1	55.3	24.5	5.7	57.2	37.1	44.0	52.8	3.1	1.3	74.8	23.9	1.3	75.5	23.3				0.6	88.7	10.7	10.7	73.6	15.7
サービス業	6.4	68.0	25.6	29.9	50.5	19.6	11.0	62.6	26.3	38.1	59.1	2.8	5.0	76.5	18.5	2.8	85.4	11.7				8.2	79.0	12.8			
建設業	1.3	59.2	39.5	12.3	50.9	36.8	4.8	55.3	39.9	34.6	59.6	5.7		78.9	19.3	1.8	81.1	17.1				2.2	83.3	14.5			
運輸業	1.5	51.1	47.3	16.8	45.8	37.4	8.4	43.5	48.1	17.6	78.6	3.8	3.1	84.7	12.2	2.3	78.6	19.1				1.5	78.6	19.8			
その他の非製造業	0.0	74.2	25.8	19.4	54.8	25.8	9.7	54.8	35.5	32.3	16.48	0.0	3.2	87.1	9.7	0.0	87.1	12.9				3.2	93.5	3.2			

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(令和 8年 5月 末現在)

〔全国〕

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	4.6	56.6	38.8	-34.2	22.1	45.2	32.6	-10.5	8.1	53.1	38.8	-30.7
製造業	4.9	52.9	42.3	-37.4	21.2	42.4	36.4	-15.2	7.8	50.8	41.4	-33.6
非製造業	4.3	59.5	36.2	-31.9	22.9	47.4	29.7	-6.8	8.4	54.9	36.8	-28.4

〔近畿地方〕

滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	4.0	52.4	43.5	-39.5	23.4	43.1	33.5	-10.1	6.5	51.6	41.9	-35.4
製造業	3.4	47.9	48.7	-45.3	19.7	44.4	35.9	-16.2	4.3	53.0	42.7	-38.4
非製造業	4.6	56.5	38.9	-34.3	26.7	42.0	31.3	-4.6	8.4	50.4	41.2	-32.8

〔北海道・東北地方〕

北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	2.3	56.4	41.4	-39.1	23.8	42.7	33.6	-9.8	8.5	51.8	39.7	-31.2
製造業	2.7	50.9	46.4	-43.7	25.5	37.3	37.3	-11.8	11.8	48.2	40.0	-28.2
非製造業	2.0	59.4	38.6	-36.6	22.8	45.7	31.5	-8.7	6.6	53.8	39.6	-33.0

〔中国地方〕

鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	6.3	58.1	35.6	-29.3	26.6	42.8	30.6	-4.0	13.5	50.5	36.0	-22.5
製造業	6.7	56.2	37.1	-30.4	26.7	40.0	33.3	-6.6	15.2	47.6	37.1	-21.9
非製造業	6.0	59.8	34.2	-28.2	26.5	45.3	28.2	-1.7	12.0	53.0	35.0	-23.0

〔関東・甲信越地方〕

茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	6.0	57.6	36.4	-30.4	22.6	46.5	30.9	-8.3	9.1	53.3	37.5	-28.4
製造業	5.7	53.6	40.6	-34.9	22.6	44.8	32.6	-10.0	8.8	49.8	41.4	-32.6
非製造業	6.2	60.3	33.5	-27.3	22.5	47.7	29.8	-7.3	9.4	55.8	34.9	-25.5

〔四国地方〕

徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	1.1	61.5	37.4	-36.3	18.4	50.0	31.6	-13.2	4.6	57.5	37.9	-33.3
製造業	1.3	61.5	37.2	-35.9	14.1	47.4	38.5	-24.4	2.6	61.5	35.9	-33.3
非製造業	1.0	61.5	37.5	-36.5	21.9	52.1	26.0	-4.1	6.3	54.2	39.6	-33.3

〔東海・北陸地方〕

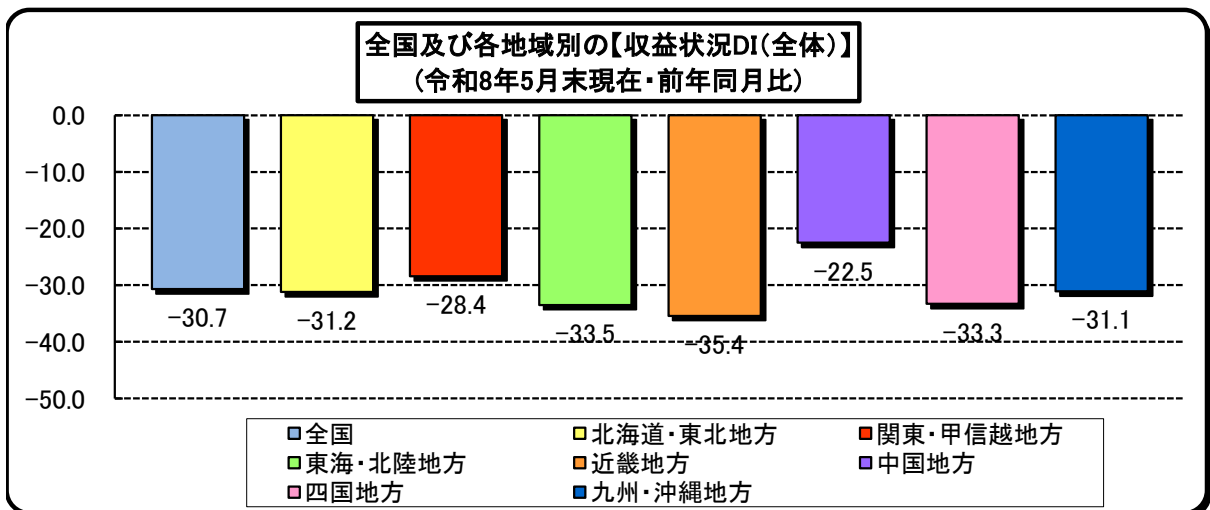
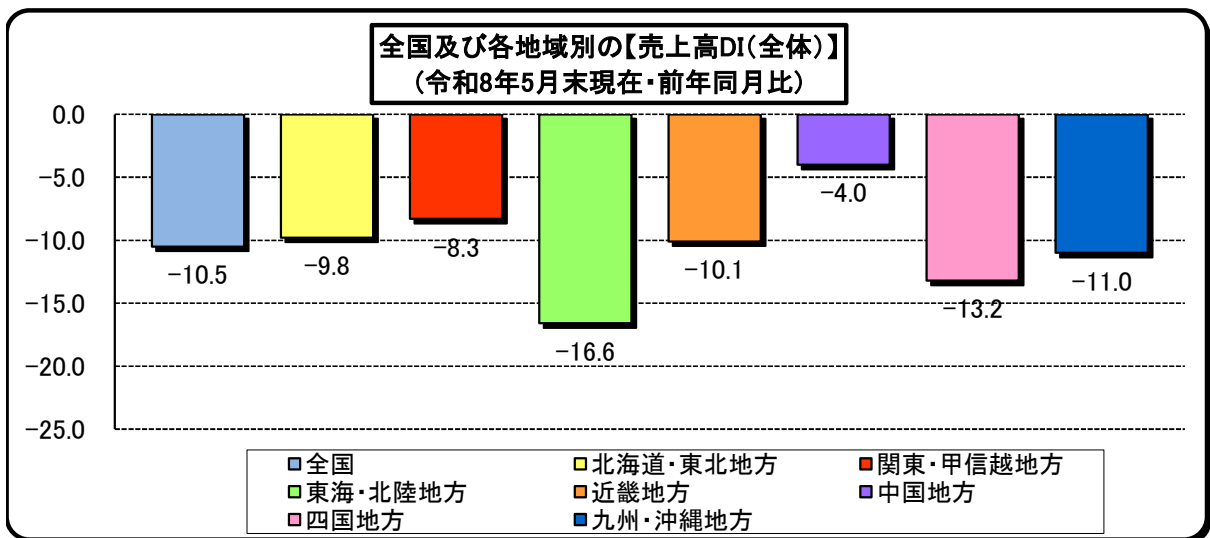
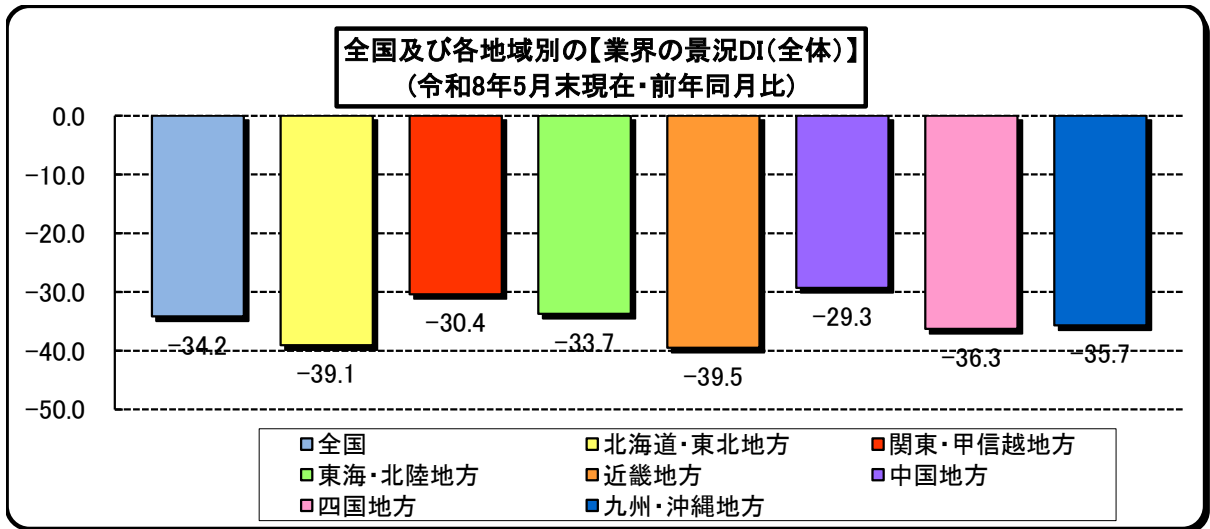
静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	4.9	56.5	38.6	-33.7	18.2	47.1	34.8	-16.6	5.9	54.7	39.4	-33.5
製造業	5.7	52.1	42.3	-36.6	17.5	42.8	39.7	-22.2	5.7	49.0	45.4	-39.7
非製造業	4.1	60.9	35.0	-30.9	18.8	51.3	29.9	-11.1	6.1	60.4	33.5	-27.4

〔九州・沖縄地方〕

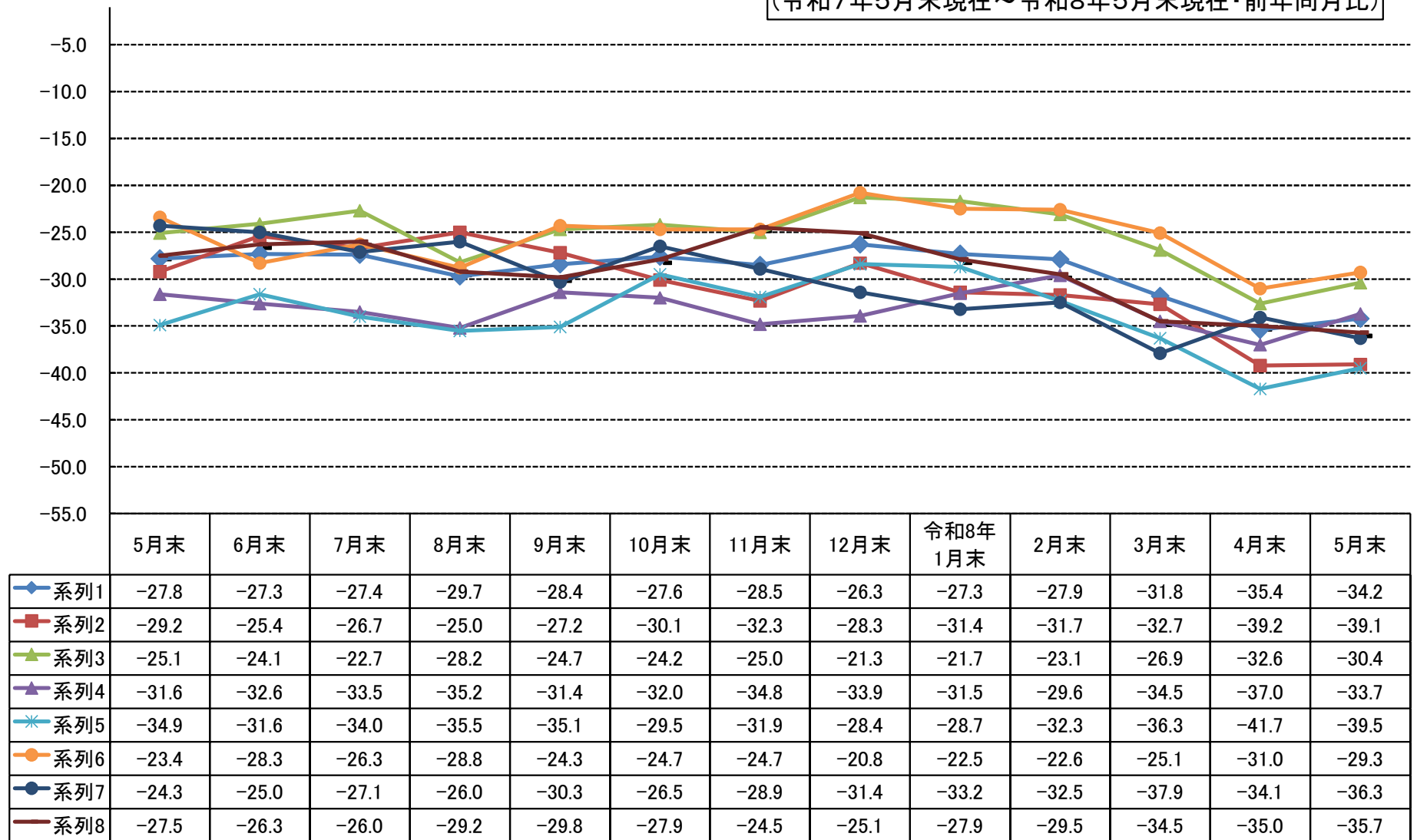
福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	4.6	55.1	40.3	-35.7	22.6	43.8	33.6	-11.0	8.1	52.7	39.2	-31.1
製造業	5.5	51.0	43.4	-37.9	21.4	38.6	40.0	-18.6	6.2	51.7	42.1	-35.9
非製造業	4.0	57.7	38.3	-34.3	23.3	47.1	29.5	-6.2	9.3	53.3	37.4	-28.1



- [北海道・東北地方] 北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県
- [関東・甲信越地方] 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県
- [東海・北陸地方] 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県
- [近畿地方] 滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県
- [中国地方] 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県
- [四国地方] 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県
- [九州・沖縄地方] 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)の推移】  
 (令和7年5月末現在～令和8年5月末現在・前年同月比)



〔北海道・東北地方(系列2)〕 北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県  
 〔関東・甲信越地方(系列3)〕 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県  
 〔東海・北陸地方(系列4)〕 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県  
 〔近畿地方(系列5)〕 滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県  
 〔中国地方(系列6)〕 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県  
 〔四国地方(系列7)〕 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県  
 〔九州・沖縄地方(系列8)〕 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

※系列1は全国値です。

## 情報連絡員からの報告（要旨）

### 《製造業》

#### 食料品

1. <栃木県 めん類 >  
原油由来の包装資材類の供給が不安定化し、調達の心配が多い。そのため関連資材類の仕入れ在庫を多めに調達している。販売価格については我々中小では、簡単に値上げはやり難いと考えている。
2. <長崎県 蒸留酒・混成酒 >  
度重なる資材や原材料の高騰に耐え切れず、5月から商品価格を値上げした。それに伴い売上高は上昇した。長期貯蔵酒の製造期間を延長して在庫数量が増加している。
3. <沖縄県 パン >  
小売流通においても来店客数減少傾向への対策として低価格商品の導入が進みつつあり、設備操業度は上がるが、売上への貢献が厳しくなる状況が生まれつつあり、今後の情勢に懸念を抱えている。
4. <福井県 醤油・味噌 >  
共同購買事業で取り扱う原資材の価格改定が続き、中東情勢悪化後の3カ月間で20~25%上昇している。組合員からは、これ以上の商品値上げは難しいとの声もあり、収益状況は厳しい。
5. <高知県 酒類 >  
米価は高値圏ながら一部軟化の動きが見られ、製造コスト面では改善への期待が高まっている。主食用米との競合等により酒米の生産基盤は厳しさを増しており、原料米の安定調達は引き続き課題。
6. <東京都 中華麺 >  
販売価格を改定してもすぐに値上げ分は、諸々のコスト増で消えていく。価格にシビアな得意先に対しては諸経費の対比表を作り、価格改定に納得してもらう工夫が必要となっている。

#### 繊維工業

7. <秋田県 繊維 >  
メーカーから生産拠点の海外移転を進める動きが示される中、仕事量を確保するため、工賃据え置きやそれを下回る取引条件であっても受け入れざるを得ない状況にある。
8. <石川県 織物染色加工 >  
問題点として絹糸や専門資材、光熱費高騰分を価格転嫁出来ない構造が挙げられる。観光客増加が高級呉服購入に結びつかないミスマッチの状況であり、伝統維持に向けて商品の転換を迫られている。
9. <岐阜県 縫製・既製服 >  
組合員によっては工賃単価の交渉が難航している先もあり、まだまだ厳しい状態。育成就労制度についても繊維のみに課せられた4条件のクリアが難しい先もあり、廃業を考える組合員が増えそうである。
10. <群馬県 刺繍 >  
現場では、納期短縮、単価据置、品質向上が求められている一方、現在の原材料高、人手不足、アパレル業界の不振との板挟み状態が続いている。
11. <愛媛県 縫製 >  
縫製工場では製品の生産工程を透明化するデジタルパスポートの普及が工場選定の重要な指標になりつつある。一方で、育成就労制度への対応などの労務コスト増が経営の課題となっている。
12. <東京都 織物 >  
当織物組合では、進物・新入社員商品売上が落ち着き、例年以上の異常気象（高温）の影響でクールビズが始まったため、当組合の主力商品であるネクタイの売上が非常に厳しい。

#### 木材・木製品

13. <栃木県 一般製材 >  
戸建住宅、特に地場工務店案件が弱い印象を受ける。プレカット工場は、当用買い傾向が継続している。一方で、分譲ビルダー、集合住宅・非住宅案件は比較的底堅い状況である。
14. <岐阜県 東濃ひのき >  
建築は順調に受注出来ているが、コスト高が利益を圧縮している。各組合員は企業努力により採算を合わせている状況であるが、競合が多く価格転嫁が難しいのは確かである。
15. <和歌山県 家具・装備品 >  
資材の度重なる値上げにより見積りが出来ず苦慮している。下請け業者は見積期限を無効にされる場合が多いため値上がりを見込んだ提示が必要だが、割増し見積りでは失注する事例も出て来ている。
16. <香川県 家具 >  
中東情勢影響により7月には更に資材価格が値上げとなる。商品への価格転嫁のタイミングも掴めないままの事業所が多いが、7月には商品の値上げを実施する予定。小売事業者も対応に苦慮している。

17. < 鹿児島県 木材・木製品 >

5月の市況は、製材製品の長期的な停滞傾向が続いている一方、素材は入荷量・販売量ともに好転した。素材は輸出向け取引の活発化により建築用素材の需給に影響を及ぼしている。

18. < 北海道 一般製材 >

木材業界に限らず、設備更新にはこれまでの投資金額の5割増が当たり前になってきている。したがって、設備更新が出来るような単価設定を考えていかなければならない。

**紙・紙加工品**

19. < 岐阜県 紙加工品 >

ナフサショックが今後どのような様な悪影響を及ぼすかが未知数のため、年間計画の見直しが必要となっている。政府が発表している「ナフサの総量は足りている」との情報も実際の現場サイドの状況と乖離している。

20. < 京都府 紙製容器 >

株価の上昇が続く半導体関連は好調へシフトしたが、他は物価高による買い控えの影響で低調である。中東情勢による影響により、袋・OPPテープ・ポリスチレン等の価格が30%から35%上昇した。

21. < 兵庫県 紙・紙加工品 >

全日本紙器段ボール箱工業組合連合会では、紙器段ボール箱製造作業における熱中症対策マニュアルの作成を決定し、マニュアルを参考に各企業に対策を行うよう周知した。

22. < 愛知県 紙器・段ボール >

中東情勢の影響が業績を圧迫している。ナフサ由来の製品が毎月値上げされ、価格交渉の余地がない。製品単価については徐々にではあるが認められ、少しではあるが経営のプラス材料となっている。

23. < 愛媛県 紙製品 >

ナフサ減少の影響で、ポリを中心としてシール等も30%値上げを強行したり、昨年実績より多い受注は受け付けられない等の対応を強行し、不安要素は高まっている。原紙価格も10%~15%値上げを強行している。

24. < 高知県 機械すき和紙 >

中東情勢による重油価格高騰が会員企業の経営に深刻な影響を及ぼしている。燃料重油の年間購入額は令和7年度比で大幅に増え、多くの企業が「かなりの影響あり」又は「深刻な影響あり」の状況である。

**印刷**

25. < 埼玉県 印刷 >

官公需の入札において、県外の業者が価格を下げ、安値で落札をしている。市町村は地域要件を守っていないため、組合員企業の存続に大きな影響が出ている。

26. < 山梨県 印刷 >

資材価格上昇が続いており、前回値上げからの期間が短期化するとともに、値上げ幅も10~15%と大きくなっている。価格転嫁を進めざるを得ない状況にあるが、取引先の理解を得られないケースもみられる。

27. < 長野県 印刷 >

物価高による値上げに加え、6月以降は中東問題での仕入価格上昇が見込まれている。適正価格に転嫁していかなければ、今後の値上げ等による事業停止、廃業、倒産が現実となるかもしれない。

28. < 宮崎県 印刷・同関連 >

2月~4月は官公庁案件により繁忙となる事業所が多いが、前年および本年は受注を確保出来ない事業所が多数見られる。原材料の値上げ要請が相次いでおり、印刷製品への価格転嫁は猶予のない状況。

29. < 愛媛県 印刷 >

依然、仕入れ材料関係の高騰は続いており、価格転嫁が出来るかが課題。雇用は必要人員が採用出来ない傾向にある。打開策は夫々が付加価値を高めていくことが求められる。

30. < 滋賀県 印刷 >

ナフサショックで資材値上げが顕著になると同時に、資材の出荷制限により、ものの動きが鈍化し始めたと感じる。資材は毎週のように値上がりが続き、利益率が下がるだけでなく、資金繰りにも影響している。

**化学・ゴム**

31. < 長野県 プラスチック製品 >

5月も売上・収益ともに増加しているが、材料価格は値上げ傾向。また副資材（OPPテープ）が入手しづらくなっている。

32. < 岐阜県 プラスチック >

4月から原料の大幅な値上げがあり、客先への製品の値上げについて、100%受け入れられている組合員と受け入れられていない組合員で状況が分かれており、依然として厳しい状況が続いている。

33. < 兵庫県 ゴム製品 >

中東情勢を原因とした原価のコストアップが経営環境を厳しくしている。円安の常態化も業界にとってはマイナス材料。価格転嫁をしようにも思うような値上げは厳しいのが現状。

34. **< 奈良県 プラスチック >**  
 中東情勢の長期化を背景に石油化学原料の調達環境は引き続き不安定な状況にある。取引先から原料供給を受ける企業では調達は安定しているが、自社調達企業では原材料の確保に苦慮している。
35. **< 島根県 プラスチック製品 >**  
 売上は昨年比110%を継続。生産設備や弱電部品、自動車等が非常に活況。量産受注も明暗はあるが殆どの客先で売上増加。原材料、資材の入手に対する不透明感からの増産と見ていたが杞憂感もある。
36. **< 広島県 プラスチック製品 >**  
 材料供給制限に加え、少量ずつの納入が増加し、生産ラインの切替え作業が頻発し生産設備の効率低下を招いている。原材料価格の急激な上昇分を販売価格へ転嫁することが難しく収益を圧迫している。

#### **窯業・土石製品**

37. **< 山梨県 骨材・石工品等 >**  
 早川地区では価格転嫁が進んだことにより売上は増加しているが、値上げを実施しても資機材価格の上昇による経費負担が大きく、利益の増加にはつなげていない。
38. **< 岐阜県 タイル >**  
 中東情勢の影響により建設現場での施工が遅れ、注文はあるものの納品日未定となっているケースが散見される。組合員により受注残の差が大きく、一部の貿易を得意とするメーカーは堅調である。
39. **< 山口県 コンクリート製品 >**  
 油関連製品の価格上昇の決定通知が次々と届いている状態である。現状は製造出来ないほどではないが、仕入単価の上昇が止まらず、今後大きな影響を及ぼす可能性を感じている。
40. **< 徳島県 生コンクリート >**  
 5月出荷量は昨年同月比約47%減少。公共工事の需要減少が最大の要因である。基本的に山間部での営業となるため、需要のほとんどが公共工事関連であり、官工事減少はそのまま経営状況の悪化を招く。
41. **< 佐賀県 製陶 >**  
 有田町内に個性的な飲食店が増えており、地域の魅力発信や活性化にプラスの影響がある。ただ、全国的に似た雰囲気のお店が増えると「有田町ならではの魅力」が薄れるマイナスの影響に注意している。
42. **< 茨城県 陶磁器 >**  
 当組合の一大イベントである笠間の陶炎祭（4月29日～5月5日）の影響を受け売上・収益は上昇した。屋外イベントなので天候の心配があったが、雨は1日程度で残り6日間は天気に恵まれた。

#### **鉄鋼・金属**

43. **< 大分県 鉄鋼 >**  
 半導体関連産業を中心に業況は好転していると感じられる。中東問題によるオイル、シンナー不足や工場消耗品の大幅な値上げが続いており、製造経費の削減が課題である。
44. **< 千葉県 機械部品 >**  
 ナフサ由来の原料・資材等の仕入れは出来ているが、価格が高騰しているため収益状況が悪化している。価格の上昇が数カ月毎にあるため、価格交渉も難しい状況にある。
45. **< 愛知県 金型 >**  
 金型業界は型種や事業所により温度差はあるが、総じてこの1年半の厳しい氷河期を乗り越え、ようやく開発案件の増加により受注量が増加してきている。
46. **< 熊本県 異業種 >**  
 売上高について、極端な2極化がうかがえる。全体的には、原油不足による原材料費の高騰や人材確保難の影響がいまだに継続している傾向があるものの、収支状況を好転させている業種も散見される。
47. **< 神奈川県 工業塗装 >**  
 当社の主力分野である防衛産業は引き続き好調である。しかし、シンナー等の供給不安があり、生産日程の変更等の段取り替えが頻繁に発生し、日々の生産額が減少している。
48. **< 東京都 ダイカスト製品 >**  
 材料費・燃料費・副資材費の急騰により収益を圧迫している。仕入価格の上昇分を価格転嫁するにはタイムラグがあるため、仕入価格の急騰が続く現状では、一時的に、多大な資金の持ち出しとなっている。

#### **一般機器**

49. **< 栃木県 一般機械器具 >**  
 暑さ対策としてスポットクーラーや空調設備の導入、作業服・冷却グッズの改善などを強化したいとの回答が多い。支援策として補助金拡充や助成金を挙げており、簡単な条件で申請出来るものが望まれている。
50. **< 新潟県 機械器具 >**  
 ガス関連部材は、材料が真鍮で今までに無い高値になっており今後の動向が不安。水道部品、産業機械部品売上は前年比倍増の状況だが、材料が非鉄金属で高騰しているため今後の受注量に警戒。

51. <石川県 機械・機械器具 >

中国市場を中心に変化のスピードが早く、特に自動車関連では納期短縮要請が強まっている一方で、人手不足は解消の目途がたっておらず、生産能力が限界となっている企業も多数存在する。

52. <静岡県 生産用機械器具 >

タングステン不足による工具の価格高騰が収益を圧迫している。材料費が値上がりしているものの、客先が相見積もりによるコスト重視の姿勢を崩さないため、売価への転嫁が難しく受注自体も困難な状況。

53. <三重県 機械器具 >

先月に引き続き景況感が良い。工作機械も自動車の関係も良い。しかし、イランでの紛争が長引いてきていて、石油の流通困難の影響で石油製品の値上げや不足が心配である。

54. <京都府 一般機械器具 >

受注量は緩やかな改善傾向が見られ、特に半導体関連や一部設備投資関連においては徐々に引き合いが戻りつつあるようで、地域全体として景況感は底打ちから回復局面へ向かう兆しも見られる。

## 電気機器

55. <山梨県 電気機械器具 >

前年同月比売上は15%増加、収益状況は10%好転。受注量や売上は明らかに改善しているが、材料や油製品、工具、洗浄液など生産に必要な資材の価格上昇が続く、業界を取り巻く環境は一変している。

56. <長野県 電子機械器具 >

前月より下振れしたものの、前年比で増収増益となっている。中東情勢により石油由来の消耗品の入手性が悪くなっているが、1~2カ月の必要量を確保しつつ、その先の確保について商社と交渉をしている。

57. <京都府 電機機械器具 >

ナフサ由来の化学製品の調達に苦慮している。高額提示や数量の制限等、円滑な調達とは言えない状況である。在庫数量も限界に近づいており、枯渇した場合、製造ラインの停止を考慮しなければならない。

58. <長崎県 配電盤・電力制御装置 >

原材料高騰により利益率は押し下げられているが、徹底した原価管理と工程見直しによりその影響を最小限に留めている。適正な価格転嫁と付加価値向上を並行して進め収益構造の更なる強化に努めている。

59. <富山県 電子部品・デバイス・電子回路 >

引き続き、民生品、産機品ともに昨年対比増加となった。自動車向け部品は計画通りの受注がある。大手メーカーの電気自動車開発中止により計画していた設備・部品の売上が見込めなくなったことが厳しい。

60. <大阪府 配電盤 >

製品の塗装工程においてシンナーは必要不可欠であるが、入手困難であるため、顧客からの指定色に対する要望に応えることが出来なくなっている。

## 輸送機器

61. <三重県 輸送機器 >

受注は自動車部品、一般機械器具ともに増加。採算面では、新規受注等での寄与に加え、既存品でも好転した。ただし、企業物価の値上がりによる収益圧迫の流れは継続している。

62. <兵庫県 輸送用機械器具 >

5月販売状況は前年同月比54.1%減少。内訳はモーターサイクル：△36.8%、ガスタービン：△11.6%、ロボット△3.1%。モーターサイクルの生産は在庫処分の為低迷しており、それを受けて販売も低迷している。

63. <兵庫県 輸送用機械器具 >

売上は前年同月比34%増。全部門が増収となったが先月に続き機械部門の伸びが堅調であった。資機材費等の値上がり分が若干価格転嫁に繋がり売上増になっているが、収益は大きな伸びとなっていない。

64. <島根県 自動車部分品付属品 >

5月売上額は前期比で27%増。内容としては一般産業向け、センサーメーカー向け、バス・トラック向けの案件が入ったことが大きい。また、近年実施している単価改定の影響も大きい。

65. <山口県 鉄道車輛・同部品 >

鉄道車両関係の全体の受注量は低位で推移していたが徐々に回復基調にある。半導体製造装置の部品製造業において当初の予測より受注量が減少していたが、今後は増加傾向の見通しである。

66. <大分県 造船 >

売上高や取引条件については微増したものの、賃金上昇はそれ以上であり、変わらず人手不足である。資材調達については現状では出荷停止のものはないが、発注制限が発生しているものが出てきている。

## その他の製造業

67. <秋田県 漆器 >

売上高は前年同月比56%増となった。明確な要因は特定できていないものの、来店客1人当たりの購買単価が上昇したことが売上増加の一因であったと推察される。

68. <奈良県 毛皮革 >  
毛皮縫製加工では、商社からの外注減少により先行きへの不安がみられる。一方、鹿皮関連では、セーム革や武道具向けを中心に受注・問い合わせが増加しており、鹿皮鞣しの依頼件数も増えている
69. <和歌山県 その他 >  
看板の材料価格が高騰し始めており、業界全体で経営環境が厳しくなっている。特に地域の中小企業では、コスト上昇分を価格へ転嫁することが難しく、収益の圧迫が大きな問題点となっている。
70. <福井県 眼鏡 >  
産地企業とIT企業等が連携して開発したARグラスが発表されるなど、鯖江のものづくり技術と先端技術を融合した新たな取組が注目を集めている。眼鏡産業の新たな可能性として期待される。
71. <神奈川県 工業中心複合業種 >  
中東情勢長期化の為、塗装・合成樹脂関連は品薄、入荷中止、値上げとかなり厳しくなっている。製品に塗装工程があるものは、製造も滞っている状況。
72. <東京都 ネームプレート >  
売上増加は、ホルムズ海峡封鎖による駆け込み需要や同業他社の撤退に依るところで、手放しで喜べる状況ではない。市場の縮小が続いていると実感している。

## 《非製造業》

### 卸売業

73. <宮城県 鮮魚 >  
各種資材の値上げが相次ぎ、価格転嫁しきれずに経営状況が悪化している店舗が非常に多い。また、資金繰り悪化に伴う廃業相談が今月だけで3件と非常に切迫している状況である。
74. <山形県 その他各種商品 >  
米価は昨年秋に高値で買った卸業者が新米流通を前にどのタイミングで価格を下げて売りに出すかがポイント。食料品包装資材等については値上げ幅が大きく顧客に価格転嫁せざるを得ない状況。
75. <埼玉県 セメント関連 >  
セメント関連の当業界では、出荷の減少傾向が続いている。建設コストの高騰、人手不足等、複合的な要因で建設物件が少なく、さらに来年4月から予定されている値上げが需要の不透明感を増している。
76. <山梨県 ジュエリー製品 >  
地金価格がピーク時より20%程度低下したことを背景に、自社在庫品の製作や受注が増加している。また、流通在庫の補充需要もみられ、前年同月比で売上高は30%増加した。
77. <東京都 玩具 >  
複数のヒット商品や準ヒット商品に恵まれ、近年にないほど好調である。購入者層がキダルトやインバウンドへと広がっていることもあり、キャラクター商品・定番商品ともに動きが良い。
78. <東京都 電線 >  
銅価格が高騰しており、電線の盗難が相次ぎ、監視システムや固定装置などの引き合いが増えている。代替品としてアルミ市場が拡大している。

### 小売業

79. <青森県 自動車 >  
県内の自転車業界では、工賃アップの効果により収入面では改善がみられるものの、それ以上に各種コスト上昇の影響が大きく、経営環境は厳しい状況。
80. <京都府 食肉 >  
5月は牛肉・豚肉・鶏肉の相場高騰分をなかなか小売価格に転嫁出来ず、売上高が変わらない中、粗利率が低下し利益面が厳しい状況であった。さらに包装資材の値上げ要請があり厳しい状況が続きそうだ。
81. <福岡県 中古自動車 >  
ホルムズ海峡の影響によりオイル関係が手に入りづらくなった事と価格の高騰が課題。中古車輸出についても船舶の影響等が出ている。
82. <宮崎県 機械器具 >  
当組合の取扱オイルも入荷困難に陥っており、在庫を持たない組合員も多いため、エンジンオイル交換が実施出来なくなっている。オイル交換等の付帯サービスが提供出来ないため利益率が低下している。
83. <東京都 青果 >  
猛暑により野菜の生育が早まっている。野菜の生育が早いと産地リレーがうまく繋がらず、野菜の安定供給に支障が出てしまう恐れがある。同時に野菜の品質も低下する場合も多く、危惧している。
84. <滋賀県 茶 >  
抹茶ブームの影響で茶葉生産農家の抹茶材料への転作やドリンク原料の需要拡大により、茶葉が品不足となっており市場価格が今まで経験がないほど高騰し、仕入れが満足に出来ない状況となっている。

## 商店街

85. <石川県 金沢市 >  
商店街のビルの老朽化が激しく、耐震性のない物件も多数存在している。ビルオーナーの高齢化でリニューアルや新築が難しい状況である。インバウンド客を取り込んでいる店舗は売上を伸ばしている傾向。
86. <三重県 熊野市 >  
JR駅前にて市民参加型イベントが開催され大いに盛り上がった。商店街の朝市イベントも同時開催され特産品販売の他、フリーマーケット等の参加もありたくさんの買い物客で賑わいをみせた。
87. <和歌山県 和歌山市 >  
5月末に実施した「おもしろちびっこ運動会」は多くの来場者で賑わった。当イベントは商店街が繁栄していた頃を知らない子供達に商店街は楽しい場所であるという思い出を持ってもらうことを目的に実施した。
88. <山口県 萩市 >  
5月前半は大型連休で消費が旅行等のレジャーにシフトしたと思われ、厳しい売上であったが、後半は市配布の「暮らし応援商品券」により来街者が増加した。
89. <香川県 丸亀市 >  
あらゆる物の値上がりで、生活者は完全に自己防衛の体制にある。節約志向が強いが、外食などを楽しんでいる人も多く、「消費者のメリハリ」を感じる。
90. <神奈川県 川崎市 >  
かなトク!30%プレミアム付き商品券の事前申込を行い、定数の倍以上の申込があった。地域住民の期待度の高さが伺える。梅雨や夏の売上落込み時期に地域経済の起爆剤になればと期待している。

## サービス業

91. <岩手県 建物サービス >  
特段大きな動きはなく単発入札案件への対応が中心となっている。契約額は増加傾向にあるが案件ごとの差が大きい。人手不足の状況は依然として改善しておらず、新規案件への対応は困難な状況にある。
92. <福島県 温泉旅館 >  
「また来て割」がスタートし、組合員各施設が趣向を凝らして集客に努めている。しかしながら、引き続き物価高騰による旅行控えや、原価の高騰による負担増など、実態として先の見えない不安が募っている。
93. <奈良県 写真 >  
例年にない高温が続いたことから、学校行事の写真撮影においても影響が見られた。特に運動会では熱中症対策として競技内容や進行時間を見直し、午前中で終了するよう短縮して実施した学校もあった。
94. <鳥取県 観光 >  
バス代の高騰等の要因により団体の動きが鈍くなっているなかで、インバウンドの団体は米子空港との直行便だけでなく、近隣（岡山・広島・神戸等）の空港を利用した周遊ツアーが好調となっている。
95. <島根県 情報サービス >  
AI市場活況によるメモリやDISK、GPUの需要増により、IT機器の価格高騰や納期遅延が発生している。価格は1.2～3倍程度、納期は半年遅延から未定となっているものもある。
96. <神奈川県 自動車整備 >  
保険会社との団体協約の締結によって、工賃単価が昨年と比べて4%前後上昇したので、業界の景気は好転しているように感じる。ただし、在庫量は昨年対比で下降気味である。

## 建設業

97. <青森県 管工事 >  
水道工事関係資材全般において、価格高騰と入手困難な状況が続いている。その影響により、ハウスメーカーでは新規の戸建住宅契約時に契約価格や工期設定が出来ない状況となっている。
98. <埼玉県 鉄骨工事 >  
ここ数年、価格改定を行わざるを得ない状況が続き、粘り強く価格交渉を重ね、徐々に理解を得て見積り依頼が増加してきた。今回のエネルギー問題により発注者の投資意欲が再び低下することを危惧している。
99. <広島県 工事 >  
見積りを依頼すると最近では「有効期限を2週間としてほしい」と求められる業者もあると聞いており、今後の価格動向が予測できない状況を示している。
100. <徳島県 板金工事 >  
仕入価格が15%程度値上げされる商品が多く、その旨の通達が届いている。製品によっては入荷の見込みが立たないものも出てきており、工事の遅延などの影響が徐々に発生し始めている。
101. <東京都 電気工事 >  
蛍光灯の製造・生産停止に伴う、LED照明器具への切り替え需要が急増。LED照明器具の生産が追い付かない状況となっているため納入までに数カ月待ち。

102. < 滋賀県 板金 >  
流通コストの上昇に加え、金属系原材料や仕入価格の高騰分を販売価格へ転嫁すると工事価格が高額となり、失注に繋がるケースも多く見受けられる。その結果受注量は減少し厳しい経営状況が続いている。

### 運輸業

103. < 栃木県 貨物自動車 >  
運送原価が上昇している現状では荷主企業との価格交渉が今後の課題となるが、企業側も原材料価格の高騰もあり運賃価格引き上げは厳しい状況である。
104. < 奈良県 貨物運送 >  
5月の運送業界は、軽油価格の高止まりが収益を圧迫している。建設関連輸送でも資材高騰による供給停滞がみられ、運賃改定も燃料価格上昇分を十分に吸収できていない。
105. < 岡山県 倉庫 >  
中東情勢の影響では、在庫確保等から特需的な動きが見えるもマイナス影響が大きく、燃料費の他、資材費の上昇圧力も増しており、物流環境は厳しさが増している状況。夏季需要の高まりに期待。
106. < 福岡県 道路貨物運送 >  
軽油の価格高騰や供給制限の中、燃料サーチャージ等運賃値上げ交渉が思うように進展しておらず収益を圧迫している。石油製品の大幅値上がりや品薄状況が続き、営業面でも難しい局面を向かえている。
107. < 宮崎県 軽貨物運送 >  
燃料価格は下落したものの運送料金の値上げ交渉が難航しており苦慮している。関係省庁がマスメディアを通じて適正価格での取引（收受）を啓発しているが、末端市場への浸透は途上であるのが現状である。
108. < 福井県 物流 >  
5月のローリー軽油仕入は各組合員の希望数量が遅延なく順調に納入され安堵したが、価格は依然としてローリー軽油がカード価格を上回っており、組合員へのローリー販売量がかなり落ち込んでいる。

### その他の非製造業

109. < 新潟県 砂利採取 >  
昨年度末に補正予算で発注された公共工事が開始されるのを待っている状況。主要な客先である生コン業界向けの出荷は低調のままである。
110. < 長野県 砂利採取 >  
先月と同様にイラン情勢・円安による物価高騰のため、主要製品の値上げを検討中で、一部製品の値上げを7月1日から行う。
111. < 三重県 療術 >  
物価高騰により高額商品の値上げが7月からあるが、メーカーが在庫が無くなり次第6月から値上げすると言っていたので、顧客の出費が増えるため、この先を危惧している。
112. < 兵庫県 物品賃貸 >  
各社、資材の仕入価格の高騰が止まらず。5月の15%~20%の値上げに引き続き、6月、7月も値上げの動きあり。仕入価格の高騰分を価格転嫁が出来ていない状況。
113. < 岡山県 信用組合 >  
中東情勢の影響が出ている企業が増加しており、取引先全先へヒアリングを行い150社以上影響が出ている回答を得た。影響が出ている先から順に融資による資金繰り支援を図っている。
114. < 神奈川県 介護・福祉 >  
介護老人保健施設は、3~4割が赤字となっており、かなり苦しい運営を行っている。最低賃金は毎年上がり続けるが、売り上げが減っている状態で人件費割合が増え、倒産する介護施設も増えてきている。